

サタデー コラム

中村正・秋田屋本店社長

フソ病撲滅への取り組み

れ、母子3人の像が花束をささげ、ブロンズのミツバチを賛美する構図となっています。建立のきっかけは、ミツバチの病気アメリカフソ病の病気がアメリカ

記されています。さらに昭和30年前後の岐阜タイムス（現岐阜新聞）にも、フソ病被害に関する多くの記事が掲載されており、日本国中まん延の状況は大きな社会問題となっていました。そんな状況の下、昭和

ました。その後、さすがに猛威を振るったフソ病も幾分治まり、昭和35年の建立に至りました。碑の裏面には古代ギリシャ時代より讃えられたミツバチの「勤労・友愛・平和」の精神が記して

岐阜護国神社（岐阜市）の北東、長良川河畔に「蜜蜂之碑」があります。毎年11月23日の勤労感謝の日

に、ミツバチの勤労への感謝と霊を慰める式典が行われ、昭和35年に始まり57年間続いています。

碑は岐阜出身の彫刻家、手島修氏の制作によるもので、高さ5.5mの長方形の壁に正六角形のミツバチの巣が浮き彫りさ

ソ病の大流行により、ミツバチの犠牲が多であった当時の背景にあります。

当時の情景は、父源次郎の著書「養蜂来た道への郷愁」の中で、「誰も悲痛な顔で黙々と言葉も

30年に養蜂振興法が制定され、ミツバチの植物に対する受粉機能が明文化されました。重要性が公

私は、毎年の式典を主催する岐阜県養蜂組合連合会の会長として、業界の先人たちがのこしたこ

菌の感染により幼虫が腐るのでフソ（腐蛆）病と云われ、被害が最大級です。フソ病菌は芽胞をつ

焼却後も河原が暗くなるまで何時までも去られな化され、政府の養蜂業に

対する姿勢が明確になりイチョなど植物への花粉



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。博士（医学）。県経済同

そこで、当社では免疫

友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会長。県製菓協会

長。みづはちの家理事長。県養蜂組合連合会長。県研究開発財団評議員。岐阜放送番組審議会委員